



ワークショップ開催報告

～台湾中央研究院歴史語言研究所との学术交流協定締結にあたって

アジア埋蔵文化財研究センター
仙田量子・田尻義了

かねてから本ニュースレター等でもご紹介していたとおり、当センターと台湾中央研究院歴史語言研究所との間の学术交流協定が、2017年10月10日に発効となった。この協定締結・発効に関連して、11月17日に台湾より歴史語言研究所考古学門主任の李匡悌先生と協定締結に向けて中央研究院側で対応にあたられた歴史語言研究所副研究員の内田純子氏が、九州大学伊都キャンパスを来訪された。李先生は、国立清華大学人類学研究所にも所属され、主に台湾南部沿岸地域の先史時代における漁労法の遷移などから居住史などについての研究をなされている。当センターでも西日本を中心とした縄文・弥生時代における人の移住や文化の変容に関する研究を実施しており、同じ東アジア地域における同様の研究について伺うことのできる良い機会として、ワークショップを催す運びとなった。

講演は、「Fishing Technology and Related Social Changes in Neolithic Southern Taiwan(台湾南部新石器時代の漁法と社会の変遷)」というタイトルで行われた。台湾島は、氷河期には中国大陆と陸続きであったため、このころ中国大陆から来た人々が比較的温かい台湾島の海岸部に集落を作ったのではないかと想定され

ている。その中で、主に台南市の台南サイエンスパーク予定地から見つかったNan-Kuan-Li遺跡(5,000-4,300 BC)と台湾島南端部のO-Luan-Pi遺跡(3,500 BC)の調査内容が紹介された。これらの遺跡から見つかった魚の骨や耳石から、この集落に住んでいた人々が採取していた魚の種類やその体長、重量等が予測され、沿岸域に定住する魚だけでなく、回遊魚も採取していたことが判明している。今回紹介された2遺跡は立地と時代が異なり、採取された魚の種類が異なる傾向があることを提示された。講演は、先史時代の台湾南部において頻繁に漁を行い、魚類を食糧としていたという興味深い内容でもあり、発表後の質疑討論も活発に行われ、予定時間を大幅に超過する議論がなされた。ワークショップ後には、ビッグオレンジで懇親会が行われ、にこやかで人好きのされる李先生は、センター構成員や教員だけでなく、学生たちとも積極的に交流を持たれた。

学术交流協定が発効された今後は、関連諸分野で具体的な共同研究の立ち上げ等が計画されており、当センターと台湾中央研究院歴史語言研究所との間で様々な情報交換や研究交流が活発に行われることが期待される。



写真1. 講演会開始に先立って、溝口孝司教授による李国悌先生の紹介が行われた



写真2. 懇親会の冒頭において、学术交流協定締結を祝っての記念撮影と李先生から著書の贈呈が行われた(写真左から2人目が李先生)



当センターでは、愛媛大学・東アジア古代鉄文化研究センターとの共同研究として、鉄製品や鉄滓などの鉄関連遺物を地球科学的手法によって解析する新手法を開発するプロジェクトを進めており、これは小山内センター長を研究代表者とする科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究「鉄文化財の極微量元素・同位体組成分析に基づく地球科学的手法のアプローチ」として採択されたものである。

その一環として、2017年10月27～29日に岡山県新見で行われた「備中国新見庄たたら伝承会中世たたら実験」に参加し、さらに実験会場の一角をお借りし、大陸や朝鮮半島に典型的な製鉄炉を復元した愛媛大学23号炉を操業した。日本式のたたら製鉄炉では、炉高は120cm程度で、口径が小さい複数の羽口から送風するのだが、今回構築した大陸式の製鉄炉は、炉高が200cmであり、羽口(送風口)が一つでその口径が大きいとい

う特徴がある。昨年度は日本式のたたら製鉄炉を用いた実験を実施したので、今年度の実験結果と比較することによって、たたら製鉄炉と大陸式製鉄炉の製鉄メカニズムの特徴と、得られる鉄の特性を把握することができると考えられる。また、今回の実験では、昨年の実験をさらに改良し、元がまの上部(羽口の直上)、中がまの中程に温度計を挿入するための穴を設置し、炉内温度の経時変化を記録することにした。今年度は、142kgの砂鉄と265kgの木炭を投入して操業を終了した。今後、炉の材料となった粘土、砂鉄、操業後の炉壁、生成された鉄、スラグ(鉄滓)などを地球科学的に分析し、それぞれがどのような組織を呈し、どのような化学組成を保持しているかの解析を進める予定である。



写真1. 粘土ブロックを積み上げて製鉄炉を構築する。



写真2. 燃え盛る炎に注意しながら砂鉄を投入する。



写真3. 今回操業した大陸式製鉄炉。

【センター活動報告】

平成29年10月10日

台湾中央化学院との学术交流協定(MOU)発効

平成29年11月17日

第3回アジア埋蔵文化財研究センターワークショップ

講演題目:「Fishing Technology and Related Social Changes in Neolithic Southern Taiwan」

講演者:李匡悌(台湾中央化学院歴史語言研究所考古学門)

九州大学アジア埋蔵文化財研究センター ニュースレター No. 14

発行:〒819-0395 福岡市西区元岡744

九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

編集:仙田 量子

発行日:2017年12月28日

TEL:092-802-5653/FAX:092-802-5662

E-mail:qa3rc@scs.kyushu-u.ac.jp

ホームページ <http://scs.kyushu-u.ac.jp/qa3rc/>